

第3回町田市子どもの居場所づくり懇談会議事録（要旨）

日時	2008年10月24日 10:00～12:00
場所	町田市役所森野分庁舎2階第三会議室
出席者	長野座長、脇副座長、菌田委員、宮島委員、近藤委員、盛永委員、舟山委員、上田委員、福田委員、岩崎委員、安食委員、奥委員、安藤教育部長
傍聴者	5名

議題1 各地域の第1回地域会議の報告

座長： 第1回地域会議の内容要点を担当から報告していただきたい。各地域の独自性並びに共通項などが徐々にみられたらと思う。報告後それを踏まえて委員同士の意見交換を行いたい。資料順で町田地域からお願いしたい。

（町田地区の報告）

副座長： 資料を基に話す。最初に参加して良かったと実感している。お母さん（PTA）の方が良くご意見を持たれている。メンバーの地域力はあなどれないと実感し、学校の協力なしでは進まないと思う。居場所とは何か？についての共通意見が出た。

最後に学校長からのご意見で、学校と、保護者を含めた地域社会の全ての大人が関わり繋がったとき、本当の居場所の意味が生まれてくる。学校づくり、町づくりと一緒にやっていると良い。

（南地区の報告）

委員： 出席してとても印象的だったのが、各諸団体の方が地域のことを良く知っていることである。子ども達に関わりを持ち、支え育てようと保護者、町内会、スポーツ団体の意識がとても強い地区である。

今回のモデル地区の中に成瀬総合体育館があるが、そこが必ずしも良い場所になっているのか疑問である。実際利用しているが、利用するにも制約があり、幼児しか遊べないプレイルームもある。決して子ども達が自由に遊べる場所ではない。

この地区の学校は放課後の開放を行っていない。子どもを持つ親か

らの「学校の校庭はとても有効な場であるのに使わないのはどうか？」という意見に対し、学校長からは、ぜひ利用していただきたい、との話があった。この地域会議での意見が、学校からの協力体制を得る事ができた。

おもしろいと思ったのは、大人の憩いの場となっている弁天橋公園が、子ども達が集まって釣りや将棋をする、世代を越えた遊び場になっていることである。地域を絡めた大きな異年齢の場になっている。

団地の広場では子どもの遊ぶ姿が見られるが、遊びの内容はカードゲームやゲーム機で遊んでいる子が多く、交流遊びではない。

大人が子どもの遊びに入り込む事が多く、関わり過ぎるのもどうかと思う。子ども同士の関わり、人間同士の関わりを大切にすることが居場所づくりになる。

今回は個々の意見を述べるだけで終わってしまい、次回からはグループ討議などにしてはとの提案がでた。

(鶴川地区の報告)

委員： 欠席者の方も少なく、一人1発言で1回目は終わった。

子どもの意見も取り入れて考えていくことが大事であり、子どもと大人が同等の立場で考えていければ良いという意見がでた。

鶴川地区は、地域の特性を生かした自然の居場所づくりも大切にしているが、子どもが自由に遊べない環境になっており、なかなか難しいところもあるが、大事なポイントの一つである。

鶴川地区にはつるっこがあるが、学校を利用した校庭開放や放課後プランも必要だと感じる。異学年で遊ぶことはとても大切なことである。今はそれが希薄になってしまい、それを実現してくれる場所がほしい。

話し合いの中で、現状から解決策に話が変わってきたが、居場所のイメージがでてくる。地区行事も活発でふれあいの場になるが、イベントの場である。日常ではない。子どもの居場所には、物理的要素と心理的要素が必要である。孤立化が進む中で地域力が低下している。孤立している親の為にも、地域全体が余裕を持って子どもに関わる居場所を作りたい。

子どもの居場所は子どもが決めるものである。大人は安心・安全、場、自由の保障の3点をキーワードに考えていくべきである。子どもの自由と大人の配慮を両立させていきながら、3世代にわたる地域の力を引き出し、地域の特性を生かしてこそ良い居場所ができる。

(忠生地区の報告)

委員： 一人ひとり、お話をいただき要点をまとめる。子どもが自由に遊ぶ場所が少なく、公共施設の利用にも制約が多い。大人の関心が薄く大人自身の考えをどうにかしないといけない。

子どもには子どもの時にしか学べないものがある事を地域の大人は頭に入れて、考えなくてはいけない。イメージとしては、たぬき山みたいに子どもが自由に遊べるものがあるとよい。

オブザーバーの学校長から、子どもの状況を見ると制約の多い中で一日を満足して遊んでいるという話があった。よく遊ぶことが、よく学ぶということに繋がっており、大切なことである。居場所づくりにはハード面とソフト面があるがハード面で安心・安全を提供し、ソフト面で地域の方の支援を受ける。

子どもは自分自身で遊びの場を選択する力を身に付ける事が大切である。

町田市の中で子どもに関わる人が一同に集まりこのような会が開ける事を素晴らしいと思う。

(堺地区の報告)

委員： 皆さんからの意見は11項目にまとめ要点にした。堺地区でも同じ意見が出たので、その中で今まで出ていなかった意見を報告する。

堺地区は広範囲で自然が多く残っているところである。居場所というのは、画一的に作られた箱物ではない。大人にできることは、少しでも外に出る時間を作ることで、見守りや交流につながる。中学生になると年下の子と遊ばなくなり、子どもがどの様に成長するのか心配である。また親も周りの子に目を向け、大人から挨拶をするなど意識を変えないといけない。

この地域は、保護者と学校が子どものことを暖かく見守っており密着している。イベントが市街地に集まり参加しにくい。施設については、新しい物を作るより問題点を解決して既存の施設を開放したほうがよい。見守り隊の格好をしているが信用してもらうのに3年かかった。

地域に安心・安全を目指していける様に今後はすすめていきたい。

議題2 協議

委員： 5地域の報告以外に、ほかの委員から伝えたいこと又は、逆にもう少し聞いてみたい事があるか。

1回目の地域会議では自己紹介を含めた会だったが、2回目以降か

らは「子どもたちにとってどのような子どもの居場所が必要ですか？」の問いかけで各地域に求める。3回目は「どのような子どもの居場所があると良いですか？」というテーマで、より具体化していく。4回目は、ソフト面も含めて「まとめ」にまとまっていく。

発表や地域会議に出席した事をふまえて、各委員の意見をフリースペースでお願いしたい。

委員： 地域会議に出席して色々な制約があることがわかった。大人が考える子どもの安全・安心の場は学校という意見が多かった。子ども達にとってなじみがあり、広さもある。他の委員からも学校の活用の意見を伺いたい。

座長： 子どもの居場所として、学校の利用が身近なところで学校の有効活用ができたらということだが。

委員： 今まで町二小は校庭開放をしていなかった学校が、PTAと開放委員会が話し合いをして、10月に1回行い、11月に1回開放をする。子どもの利用はあり、学校は囲まれているから安心であるというが、囲まれている故に不審者が入ってきた時に逃げ場がない。入り口を2ヶ所作り声かけの配慮をした。校庭が絶対的に安心・安全ではないので、地域全体安心・安全である活動をしていく事を考えた上で、結論を出した方が良い。

副座長： 学校長は、「ぜひ、利用してください。」というが、実際難しいところがある。学校が必ずしも全てとは考えず、子どもや先生と色々議論してみたい。

委員： けがについても以前、校庭開放をした時には養護の先生がいたので子どもは安心して遊べたが、学校外ではどうするか。

委員： 子どもの安心・安全を守るには不審者対策ばかりではない。子どもの死因は交通事故が多く、次に親からの虐待があがっている。

委員： 安心・安全は保護者からの意見なので、学校や地域が慎重にならざるをえないが、自己責任ということに大人が理解して行けると良い。

委員： 私が子どもの頃は、校庭で遊んでけがをしたら、家に帰って対応し

ていた。責任をどこかに持っていくのではなく、自己責任を言い放つたらどうか。

委員： 子ども達がどのような遊びをしたいのかを考えたい。子どもの気持ちを知り、大人の頭の中を切り替えないと子どもの居場所は見えてこない。今の大人は子どもを省いて自分が中心になっている。

アンケートをとってみて、その年々で大人の考えは変わってくる。子どもが思っていること、大人が求めていることは各地域や学校で問いかけてもいいと思う。

学童クラブ児の4年生以後について公的に訴えるだけでなく、親自身ができることを探して親自身がやっていることも必要で実際にやっている人達もいる。それを支えていく態勢が必要である。

委員： 地域会議に出席している方はとても熱心だが、全ての親がそうではない。責任放棄をしている親、地域、団体が多く今の子どもたちを不幸にしている。

家庭内で会話があり家庭力があれば、危険から身を守る力がつき、地域とかかわりを持つ中で、安心がうまれる。昔の親は子どものミスは親なりに反省したが、今は他人のせいにしてしまう。周りも責任を負いたくない。あくまでも自分の子の責任は親が持ち、足りないところは周りをお願いするものではないか。

委員： 私も家庭が責任放棄していると感じる。意志のある方が深入りすぎて、共依存していると思う。地域会議で思ったが、大人と子どもの考え方にズレがあり、子どもは何を求めているのかを聞く事と、学校・家庭・地域の根本を見直す必要がある。

学校開放については、教育の場の印象が強く自由に欠ける。通学している子は行きやすいが不登校の子はどうするのか。管理を学校がするのは違うと思うし、誰がやるのか疑問に思う。

委員： 主体は子どもで、その下準備は大人が行う。子どもの意見を聞くことが大切であり、大人の意識改革も必要だろう。自分の経験から、子どもはどんな環境でも自主性、適応能力があると考ええる。

子どもの遊び場（スライド）を見て思ったが、男子は男子同士、女子は女子同士で遊んでいる姿を見て、そのような視点で考えてみるのもいいと思う。

委員： 幼稚園や園での習い事のお迎えの後、子どもたちはそのまま園庭で遊んでいることが多い。下の子を連れてくる保護者もいるが、公園とは違い門があるので、安全で安心して遊ばせられる。母親たちの交流の場ともなっている。黙認してくれている園には感謝している。学校開放はいいことだと思う。ただ、あまり規制が多いと利用がしにくくなってしまわないかと思う。

居場所は学校でやると、親の都合で行かされる子も出てきて、仲間外れやいじめが助長されることもあるかもしれないと懸念される。その場合、本来、子どもが行きたいと思っている場になっているのか疑問に思う。また、過保護の親や責任転嫁も多いのでいろいろな問題が出るのではないか。

委員： 校庭開放をした時、学童保育児と学童保育に入っていない子が、校庭で一緒に遊べたことをとても喜んでいたら聞いた。校庭開放したことにメリットがあった。学校開放の問題をクリアして、やる必要があると思う。

委員： 居場所をつくることの話し合いだが、つくっていく過程での議論が大切であり、地域の親に投げかけて考えてもらう事も必要である。場所ではなく、仕組みだと思う。親に投げかけ考えてもらえば、責任放棄などもなくなり意識改革に繋がるのではないか。子どもの意見を聞きたい。

委員： 私たちが今考えている子どもの居場所は、親が在宅の子どもを対象に考えていると思う。学童クラブを居場所づくりの中に入れたいではない。全児童対策を考えて行くときに、他の自治体では学童が吸収されていくことが多い。学童クラブは行かなくては行けないところである。すでに世田谷区、川崎市は全児童対策に吸収されており、今年度から渋谷区もなっている。

委員： 学童クラブに預けている親は、年250日も家にいないのに、子どもを産み育てる理由がわからない。

委員： 今は女性も社会に参加し、自由に仕事をしている時代である。

座 長： 次回の地域会議では、今日の内容をぜひ投げかけ、意見を引き出していただきたい。

学童クラブの4年生以上の保育については、行政への要望と内容の改善が必要になるだろう。

2回目の地域会議は「子どもにどんな居場所が必要でしょうか？」をテーマに、親意識の改革・ハード面の改善・既成の取り組みを頭に入れて話し合っていたきたい。又、会議の持ち方も工夫しても良い。テーマがとても抽象的なので、話し合いの内容が具体的にないとよい。

議題3 地域会議の進め方について

委 員： 2回目のテーマは統一した方が良いのではないか。話し合いの中で大切なのは子どもの目線で考え、保護者から見た大人の感覚である。

副 座 長： 子ども・親・地域のニーズを改めて考えを投げかけ、そうすれば学校・学校外・人の問題がある。

委 員： 行政は、全ての会議が終わったときに、各地域からの居場所の要望についてどうするのか。

委 員： 居場所づくりの補助金の額と1年間の運営費はどのくらいか。

児童青少年課長： 市内全て行うのは難しいが費用に関しては、意見を尊重した上で検討していく。

委 員： 今回の5地域以外で行いたいという意見が出た場合はどうするのか。

児童青少年課長： 場所の指定は考えていない。今回は子どもの居場所について話し合いをしてほしいとお願いしている。モデル地域が何かを始めるということではない。

委 員： この内容については、地域会議で話したほうがいい。

座 長： 地域会議の話し合いで、具体的にこのような物がほしい等と意見が出てくるかも知れないが、すぐに還元できることではない事を確認しな

がらすすめていく。

議題4 その他
特になし

以降、各委員・事務局は担当地域に分かれ、地域会議の確認・ミーティングを行う。

以 上